



弥生の出雲王に出会える

季刊

第38号

(2020年7月)



出雲弥生の森博物館だより

IZUMO YAYOINOMORI MUSEUM

★開館10周年記念特別展
「出雲・上塩冶築山古墳と
その時代」

9月26日(土)～12月21日(月)

出雲弥生の森博物館は今年の4月29日に開館10周年を迎えました。これを記念し特別展を開催します。当館の特別展は、2016(平成28)年に開催した「出雲王登場」とことん解剖西谷3号墓」以来、4年ぶりの開催です。

今回取り上げる遺跡は、6世紀末に造られた出雲市上塩冶町の国史跡、上塩冶築山古墳。墳丘は直径約46mの大形円墳で、墳丘内部の横穴式石室は、奥行が14.6mあり、山陰で最長です。石室内には大小2つの石棺が置かれています。約1.5km北には島根県最大級の前方後円墳、今市大念寺古墳(全長約92m)があり、上塩冶築山古墳はこれに続く出雲西部の首長墳です。1887(明治20)年、土地所有者により石室が開けられ、この時、金銅冠や馬具など豊富な副葬品が発見されました。現在これらの出土品は、出雲市のほか東京国立博物館、東京大学総合研究博物館、京都大学総合博物館で所蔵されています。

当館では、この古墳の出土品再調査を2015(平成27)年から3年かけて実施し、出雲弥生の森博物館研究紀要第6集で報告しました。2018(平成30)年には、出土品が国の「重要文化財」に指定されました。所蔵品としては当館初の重要文化財です。

今回の特別展では、東京国立博物館に所蔵されている上塩冶築山古墳のガラス小玉、銅鈴、須恵器を、133年ぶりに出雲に里帰りさせ展示します。

この他、6世紀に造られた中・四国地方の主要古墳(下記のとおり)の副葬品を展示します。これらの副葬品から、古墳時代後期の埋葬の特徴を紹介します。さらに、上塩冶築山古墳に埋葬された2人が生前に活躍した姿を推察します。

一方、埋葬された人は死後どのように扱われたのでしょうか。古墳では、死者や古墳にむらがる霊を鎮めるため、飲食物を供えたり、玉をばら撒いたり、遺体や副葬品を壊す等の儀礼が行われました。上塩冶築山古墳での儀礼の詳細はわかりませんが、全国各地でこのような儀礼が明らかになりつつあります。

本展示は日本の古代国家が成立する直前の時代について、上塩冶築山古墳を介して紹介します。ぜひ、ご観覧ください。 (坂本豊治)

展示予定の副葬品

- ・香川県善通寺市王墓山古墳(讃岐)
 - ・岡山県赤磐市岩田14号墳(備前)
 - ・岡山県倉敷市王墓山古墳(備前)
 - ・広島県福山市二子塚古墳(備後)
 - ・鳥取県鳥取市小畑3号墳(因幡)
 - ・鳥取県米子市石州府5号墳(伯耆)
 - ・島根県松江府林43号墳(出雲)
 - ・島根県松江府岡田山古墳(出雲)
 - ・島根県松江府御崎山古墳(出雲)
- ()は旧国名



二子塚古墳大刀の柄頭
(福山市教育委員会 蔵)



岩田14号墳馬具の杏葉
(赤磐市山陽郷土資料館 蔵)

★リニューアルした
常設展の見どころ

当館の開館10周年を記念して、このたび常設展をリニューアルしました。これまでの常設展は、西谷墳墓群が墓山として利用されていた弥生時代から平安時代にかけての歴史を、展示品約1000点で解説していました。このたびのリニューアルでは展示品を約150点追加して、縄文時代から中近世にかけての出雲市の歴史が概観できる構成に改めました。展示で取り扱う時代の幅が大きく広がったところが、今回のリニューアルの見どころといえるでしょう。

新たに設置した解説パネルでは、中近世の出雲西部を象徴する史跡である鰐淵寺境内と田儀櫻井家たたら製鉄遺跡を取り上げています。

鰐淵寺は、現在も仏法の伝統を継ぐ天台宗の古刹で、中世には大寺院へと発展し、杵築大社(出雲大社)とともに出雲国における信仰の中心的存在になりました。近年、文献史学と考古学の両面からの調査が進み、境内を多くの僧が行き交っていた往時の鰐淵寺の姿が垣間見えてきました。

田儀櫻井家たたら製鉄は、松江藩の庇護のもとにこの地の一大工業として発展しました。当時のたたら経営の特徴は、奥田儀の山内に本宅と大鍛冶場を設置し、山間部のたたら場に加え、田儀の港の近くにも中核となるたたら場を置いたことです。この海辺のたたらでは、木炭などの原料搬入や生産した鉄の搬出を、海運を利用して効率的に行っていました。

鰐淵寺境内と田儀櫻井家たたら製鉄遺跡は、ともにかつての様子を今に伝える貴重な史跡で、保存活用のための整備が進んでいます。

弥生時代を中心に光り輝いた「古代出雲」のみならず、華々しく発展した「中近世出雲」にも思いを馳せていただければ幸いです。(三原一将)



新設した中近世の解説パネル

★「ぬりえ」で祝おう10周年!

おうちで「ぬりえ」をして、一緒に開館10周年をお祝いしませんか。特典を2つご用意していますので、ぜひご参加ください♪

特典その1

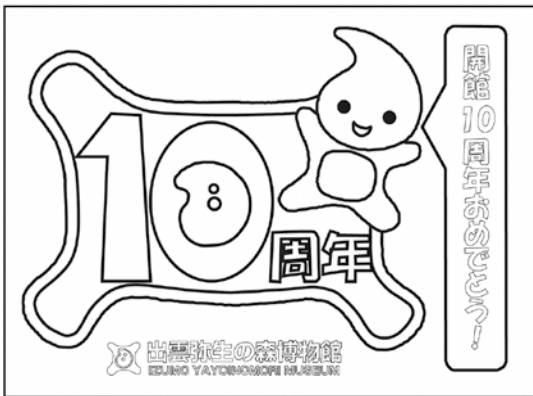
完成した「ぬりえ」を博物館のブログ・フェイスブックで紹介! 特典その2

完成した「ぬりえ」を博物館に持ってきていただくと、開館10周年記念オリジナル缶バッジをプレゼント!

「ぬりえ」のダウンロードと特典の詳細は博物館HPをご覧ください。



博物館 HP



★キーホルダー&マグネットのデザインがリニューアル!

開館10周年を記念して、博物館ショップで販売中の「キーホルダー」と「マグネット」のデザインが新しくなりました。さらに、10周年限定デザインも登場!

この機会にぜひ、お買い求めください♪



▲10周年限定マグネット 全6種類
(キーホルダーにも同じデザインがあります)



★ギャラリー展

「いつまでも」

戦後でありたい2020

7月29日(水)～9月7日(月)

アジア太平洋戦争の終結から75年目の夏を迎えます。戦後生まれが国内人口の約84%を占める日本にあつて、戦争というものは遙か遠いものにも感じられます。

しかしながら、戦時中の出来事の痕跡は、今でも身近な地域に数多く残っています。今回の展示では、そうした出雲市内に残る戦争関連の遺跡を紹介します。

例えば、出雲市斐川町に現在もおよそ1kmにわたって横たわる旧海軍大社基地。太平洋戦争末期に整備されたこの基地には爆撃機「銀河」などが配備され、周辺には機体や爆弾を格納するために作られた掩体壕などもあります。

そこから程近い山陰本線段原鉄橋の橋桁には、1945(昭和20)年7月28日、米軍機による機銃掃射の銃弾痕が残っています。同じ日には、浜田市や松江市玉湯町、鳥取県米子市周辺でも空襲があり、多数の死傷者が出ました。

また、出雲市の十六島町や小伊津町、多伎町小田などの山頂には、

敵機の襲来を監視するための聴音壕があり、大社町日御碕の高尾山山頂には、レーダーや見張台、兵舎などの跡もあります。

このほかにも、戦時中の物資不足を補うために開発された鉱山跡や、レールが供出され廃線となった駅、燃料として松ヤニが採取された松など、戦争に関連した遺跡は、意外なところに残っています。

この夏、これらの身近な遺跡を訪ね、戦争が決して遠い昔のことではないと感じていただけたらと思います。

(石橋 紘二)



高尾山山頂に残る海軍レーダー基地跡

★古文書の森をゆく③

「神戸川と江戸時代の船影」

斐伊川とともに出雲平野の二大河川として知られる神戸川は、全長約80kmにおよぶ清流です。その川筋は、中国山地の湧き水を集めながら北上し、国の名勝・立久恵峡を通り抜けて菌の長浜へと達します。

かつて、神戸川は沿岸部と内陸部を結ぶ水上交通路として機能しました。中流域の立久恵峡付近から河口までの間は小型の木造船が往来し、その船は木材・砂鉄・日用品などを運んだそうです。

実は、この水運に関する記録が、出雲市多伎町奥田儀を本拠とした鉄師・田儀櫻井家の古文書にあります。

1819(文政2)年、神門郡乙立村(現出雲市乙立町)では「清流小鉄」と呼ばれる砂鉄が採れました。この砂鉄に注目したのが田儀櫻井家。早速、乙立村へ砂鉄の買い付け交渉を試みました。

右の交渉を受けた乙立村は、これを許可し、田儀櫻井家に対して次のような砂鉄の輸送方法を示しました。

「乙立村より西園村崎屋まで川

船にて積み出し、同所より海船に積み替え、口田儀まで運送いたしそろう」

ここから、乙立から口田儀へ砂鉄を運ぶ方法として、水上交通が採用されたことがわかります。加えて、十九世紀における神戸川の水上交通は、乙立崎屋(現出雲市西園町)の往来が可能だったこと、崎屋を結節点に日本海の水上交通とリンクしたことを示しています。「清流小鉄」を積んで乙立を発った船は、静かな川の流れに乗って河口へ向かったことでしょう。

今ももう、神戸川で砂鉄を運ぶ船は見られません。しかし、その姿は約二百年前の墨痕が色濃く描き残しているのです。(中山玄貴)



現在の神戸川河口

★展示のご案内

▼開館10周年記念特別展

9月26日(土)～12月21日(月)

「出雲・上塩冶築山古墳と

その時代」

▼ギャラリー展

好評開催中～7月27日(月)

「田儀櫻井家のたたら製鉄

その1 宮本鍛冶山内遺跡」

7月29日(水)～9月7日(月)

「いつまでも

戦後でありたい2020」

※観覧料は無料です。

★講座・講演会のご案内

▼職員リレー講座

●受講料 300円

●申込受付 8月1日(土)開始

①9月5日(土) 14時～16時

「ここまで分かった鰐淵寺」

●講師 原 俊二

②9月26日(土) 14時～16時

「田儀櫻井家のたたら製鉄と信仰」

●講師 幡中光輔

③10月3日(土) 14時～16時

「『浴湯日誌』の世界

— 文明開化と温泉宿 —

●講師 中山玄貴

▼開館10周年記念特別展関連講演会

●受講料 無料

●申込受付 9月1日(火)開始

①10月10日(土) 14時～16時

「上塩冶築山古墳の

2セツトの馬具と2人の被葬者」

●講師 桃崎 祐輔氏

(福岡大学)

②11月7日(土) 14時～16時

「上塩冶築山古墳のガラス玉は

どこから来たのか？」

●講師 田村朋美氏

(奈良文化財研究所)

③12月5日(土) 14時～16時

「上塩冶築山古墳の金銅冠と

被葬者をめぐって」

●講師 持田大輔氏

(奈良県庁)

講座・講演会の申込について

当日受付なし 先着40名

事前申込必須(電話・FAXのみ)

●申込受付時間 9～17時

●必要事項 氏名・電話番号・住所

●必要事項 氏名・電話番号・住所

●必要事項 氏名・電話番号・住所

●必要事項 氏名・電話番号・住所

●必要事項 氏名・電話番号・住所

●必要事項 氏名・電話番号・住所

●必要事項 氏名・電話番号・住所

★館長古來夢

4年前のNHK大河ドラマ「真

田丸」。真田幸村こと信繁を堺

雅人が演じた。信繁は、慶長19

(1614)年の大坂冬の陣で豊臣

秀頼に味方し、大坂城外堀の南東

隅の出城「真田丸」で奮戦した。

のちの松江藩主・松平直政が徳川

方で初陣を飾った戦いでもある。

真田丸跡の東側に「真田山陸軍

墓地」がある。明治から昭和にか

け、各地で戦病死した陸軍兵士の

墓石約五千が並ぶ。山陰の若人も

徴兵され、大阪や広島で軍務に従

事した。真田山陸軍墓地には地元

出身兵士の墓碑もある。

出雲市内斐川町下直江出身の一

兵士は、1877年の西南戦争に

従軍、鹿児島県内で負傷し大阪陸

軍病院で亡くなったと記される。

この当時、鳥取県は島根県と合併

しており、「島根県下伯耆国汗入

郡淀江宿(現米子市淀江町)との

表記もみられる。墓碑銘からは、

兵士が相手にしたのは敵兵だけで

はなかったことも読み取れる。

1871年に入隊し、西南戦争

から無事帰還したある兵士は、そ

の2年後「天下大疫大坂最熾」のた

め亡くなった。この疫病とは何か。

現在の鳥取市から1877年に

徴兵された若者の碑銘には、「十二

年六月二十八日虎列刺病二罹り同

二十九日／大阪鎮台病院ニ於テ没

した、とある。「虎列刺」は「コレラ」。

明治12(1879)年はコレラが

大流行した年だ。全国の患者数

16万2637人、10万5786人が

死亡。死亡率は65%に達した。政

府は日本初の感染症予防規則「虎

列刺病予防規則」を定め、コレ

ラ患者を専門に隔離する避病院を

東京に三か所設置するなど、防疫

と専門的な治療に乗り出した。

明治の感染症研究といえは、ペ

スト菌発見で有名な北里柴三郎。

新千円札の肖像は彼に決まったと

いう。妖怪アマビエ以上に疫病退

散にご利益あるかも。(花谷 浩)

(発行) 出雲弥生の森博物館

2020年7月

〒693-0011

島根県出雲市大津町2760

(TEL) 0853-25-1841

(FAX) 0853-21-6617

(E-mail) yayoi@city.izumo.lg.jp

http://www.city.izumo.shimane.jp/yayoinomori

●入館料/無料

●開館時間/9:00～17:00

(入館は16:30まで)

●休館日/火曜日

(祝日の場合は翌平日)

年末年始

